



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 天界 1920, 1(2)

ISSUE DATE:

1920-11-29

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159529>

RIGHT:



Vol. I

THE

REVENUE

NO. 2

Dec. 1920

十二月號

天 界

第一卷

第二號

内 容

(繪口) 小遊星發見真寫

小遊星の發見……………一七

理學士 山本 一 清

私星界に興味した動機……………二五

津 田 雅 之

邦天文書總覽(其二)……………二六

古 川 龍 城

雜報 白鳥座第三新星……………二九

報 學術研究會の天文部……………二九

新刊紹介……………二九

▲▲▲質疑二件▼▼▼……………三〇

一戸直融博士逝く……………三〇

英文欄 Discovery of Nova Cygni……………三一

同好會報——消 息……………三二

特別附錄 天文語彙 (其二)

十二月の天象

太陽 廿二日正午 人馬宮から山羊宮に入

(即ち冬至)

月 三日午前一時 下半月(獅子座)

十日午後七時 新月

十八日午後十二時 上半月(双鱼座)

廿五日午後十時 満月(双子座)

水星 初曉天の觀望頗る宜し。

三日最大離隔で太陽より二十度半離

る。位置は天秤座と星にくつつかんば

かり。月末は太陽に近いから觀望不便

なる。

金星 西天 前月 光彩を増す。

月初は射手座だが東行して十二日には

山羊座に入る。だんく火星に近づく

火星 月より山羊座の寂しい天を獨行。速力

も光力も減衰。月末は金星に追及され

る。

木星 獅子座シ星附近餘行光輝依然強大

出現時刻が早まるので觀るには好都合

土星 乙女座ベ星附近に嚙り付いてゐる。木

星と并んで少し御遠慮の体、輪は大ぶ

ん太つて来る。

天王星 月没後の南天に、長く滯留してゐた

が、西から金星と火星とが襲つて來さ

うなので、やおら立ち上つて難を避け

やうと動き出す。水瓶座シ星の西。双

眼鏡で見ゆる。

海王星 蟹座の一角、殆んど動かない。但し

見ゆるのは日没後九時頃東天から見ゆ

る。

會 告

◎十二月例会　來る十二月十八日(土)午後三時、京都大學理學部物理學教室にて開會、左の講演あり。

(靴又は草履)

天文と曆

助教授理學士　山本一清氏

◎天文學講習會

我が同好會主催、左記の如し。

時日　大正九年十二月十六日より同二十日迄毎日午後六時半開講

學科及講師

天體の位置及運動

講師　理學士　山本一清氏

星座について

同　古川龍城氏

會場　京都市中立賣室町西入、第一高等小學校内

會費　金貳圓(但し同好會員は金壹圓五拾錢)

申込　往復ハガキにて來る十二月十五日までに同好會へ申込まれたし

Contents of THE HEAVENS No. 2.——edited by I. Yamamoto.

I. Yamamoto, Discovery of Minor Planets——*M. Tada*, How I became interested in Stars?——*R. Furukawa*, General Reviews of Japanese Astronomical Literatures (concluded)——Nova Cygni III——Orion Nebula——Astronomical Department of National Research Council——New Book reviewed——Queries——Our English Page, Discovery of Nova Cygni III——Late Prof. N. Ichinohe——Notes.
APPENDIX: *T. Ebi*, Astronomical Lexicon (2)

Published by the Society of Astronomical Friends,
Kyoto University Observatory, Japan.

天文同好會規則 (第三版)

- 第一條 此ノ會ヲ天文同好會ト云フ
- 第二條 此ノ會ハ天文學ノ了解ヲ進メ兼ネテ同好其相互ノ親睦ヲ増スノガ目的デアル
- 第三條 事務所ヲ京都市吉田町京都大學天文臺内ニ置ク。又會員密集ノ地ニハ支部ヲ置ク事ガアル。
- 第四條 此ノ會ハ右ノ目的ヲ達スル爲メ次ノ事業ヲ行フ
- 一、講演(例會毎月一回 大會年一回 其他臨時會)
- 二、講習會(各地ヲ隨時ニ開ク)
- 三、雜誌圖書ノ出版(雜誌ハ月一回、圖書ハ隨時)
- 四、實地觀測(第一部、啓蒙的、甲觀望、乙見學、第二部、研究的、甲流星、乙變光星、丙彗星)
- 第五條 此ノ會ノ目的ニ賛同スル者ハ誰デモ會員ニナレル但シ毎月金貳拾錢ノ割テ納付スル必要ガアル
- 申込ノ際ハ住所職業生年ヲ記入セラレタイ
- 第六條 特ニ一時金五拾圓以上ヲ寄附スル者ヲ名譽會員トスル
- 第七條 此ノ會ノ幹部ハ次ノ通り
- 幹事 二名 會計 一名
- 此ノ幹部ハ總會テ選舉セラレル者テ任期ハ一個年
- 第八條 幹部ハ會員ノ中カラ次ノ係リヲ指名囑託スル
- 議長係 一名 編輯係 三名 觀測係 一名 寫真係 一名

幹 部 (第一期)

幹 事 山 本 一 清
同 事 古 川 龍 城
會 計 滑 川 忠 夫

天 界 第一號 (創刊號) 目 次

(日 繪) 十吋反射鏡

天文同好會——趣意書——成立

星の光度(附 一等星表) 理學士 山 本 一 清

邦 天文書總覽 古 川 龍 城

所 感(和 歌) 伯 爵 冷 泉 爲 系

天文ニ旅行 水 野 千 里

雜 報——テンヘル百濟彗星——ロツキヤ氏逝ク——十吋反

射望遠鏡到着

質 疑 三 件 天象につき注意

天文語彙 (其二)

天文エハガキ (近刊) 同好會發行

第一集 天文器械の部 (七吋望遠鏡、十吋望遠鏡、子午儀

と天文時計、太陽寫真儀、天文經緯儀)

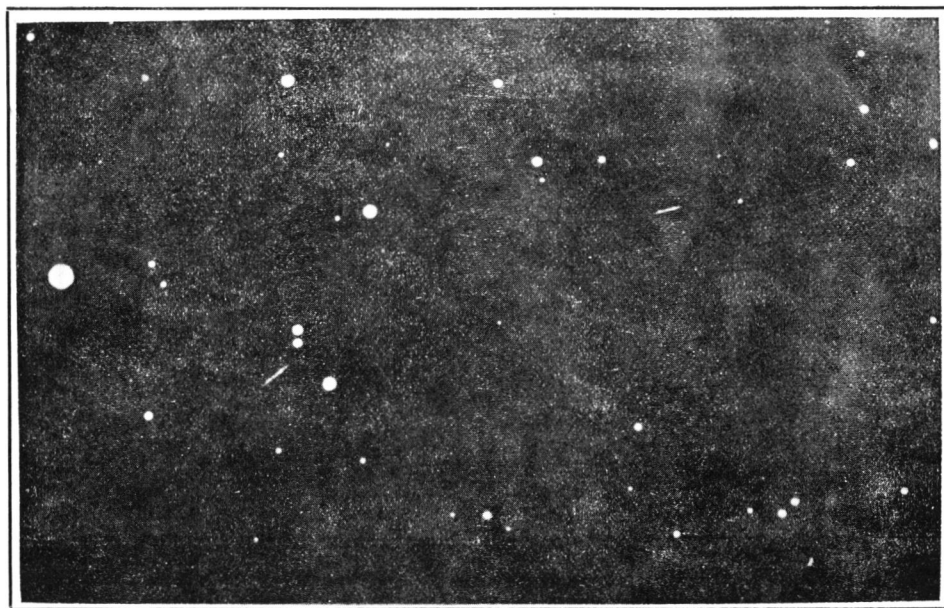
第二集 京都天文臺 (新城博士、山本助教授と新星、百濟理

學士と彗星、佐々木氏と彗星、スタフ)

第三集 天體寫眞の部 (近江隕石、太陽、島島皆既日食、

星のスペクトル、新星と其のスペクトル)

小遊星の發見寫眞



此は一九一〇年四月一日逸ルベル天文臺六十吋望遠鏡にてフルネ教授の撮影
 は左の星遊小の既知でアシドフィ(380)は右てつ向るゐてつ寫つこが像線の星遊小でのまし
 一〇九一—H C いふ新發星(座星)牡羊座——記事參照

編輯室にて

或る會員の御助言により思ひついて此の號から英文欄を設けました。今日の我が天文學界は歐米の學界と直接の關係がありますから此の欄に於いて西洋の學者の報告や通信や論文の一部を載せて彼等の空氣に觸れたいのでありますが、更に又此の欄は初學の方々のため歐文報告及び術語に慣れて頂く便宜があるだろうと思ひます——此の意味で簡単な注釋を付します。此の欄のために神戸のマヤス博士(會員)が特別に骨を折つて下さることにになりましたので、頗る心強く感じます。——本號には白鳥座新星の最初の發見者たるデニンが自身の發見報告を載せました。▲一戸博士の逝去は誠に惜しいことです。早速、古川氏に一文を書いて頂きましたが、何れ近い中に専門家としての博士と其の事業を紹介したいと思つてゐます。何と言つても我國天文學界の最大著作家でありましたから、我が會員諸君の中にも直接に博士の著書によつて導かれた方は過半数だろうと思ひます。▲正月號のために何か御注文があれば仰しやつて下さい。

事務室より

▼別報の如く、日本最初の天文學講習會を開きます。定員は五十名ぐらゐで、お切りります、早く御申込下さい。
▼本會維持のため是が非でも會員總數五百名に達しなければなりません。『五百名運動!』このために會員諸君の御奮闘を願ひます。一名でも多く入會者を御奨め下さい。
▼會員諸君の中で望遠鏡が御入用ならば取次致します。

大正九年十一月二十八日印刷

(定價金貳拾五錢)

大正九年十一月二十九日發行

京都帝國大學天文臺内

編輯兼
發行者

天文同好會

振替貯金大阪五六七六五番

右代表者

山本一清

印刷者

京都市夷川川端東入下ル
佐藤 靜

印刷所

京都市夷川川端東入下ル
弘文堂印刷所